

平成27年度

〔水道事業〕
〔工業用水道事業〕 決算参考資料
〔下水道事業〕

上下水道局

目 次

1	決算の概要	1 頁
2	業務量	
	(1) 水道事業	2 頁
	(2) 工業用水道事業	2 頁
	(3) 下水道事業	3 頁
3	決算報告	
	(1) 水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	4 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	8 頁
	(ハ) 損益計算書	12 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	12 頁
	(ホ) 貸借対照表	13 頁
	(2) 工業用水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	14 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	18 頁
	(ハ) 損益計算書	22 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	22 頁
	(ホ) 貸借対照表	23 頁
	(3) 下水道事業	
	(イ) 収益的収入及び支出	24 頁
	(ロ) 資本的収入及び支出	28 頁
	(ハ) 損益計算書	32 頁
	(ニ) 剰余金処分計算書(案)について	32 頁
	(ホ) 貸借対照表	33 頁
4	経営概況	
	(1) 水道事業	34 頁
	(2) 工業用水道事業	38 頁
	(3) 下水道事業	40 頁
5	主な施策	45 頁

1 決算の概要

上下水道局は、「信頼」を基本理念とする名古屋市上下水道構想「みずの架け橋」の実現に向けた第2期計画である中期計画「みずプラン27」（計画期間：平成23～27年度）の着実な遂行に努めました。

各事業の決算の概要は以下のとおりです。

<水道事業>

収入面においては、うるう年の影響などにより給水収益が前年度に比べ微増となったほか、固定資産売却益2億3千2百万円余の計上などにより増収となりました。支出面においては、人件費の削減に努めるとともに、高利率の企業債が減って支払利息が減少したことなどにより、当年度は8億1千万円余の純利益を計上しました。

<工業用水道事業>

収入面においては、契約事業所が3か所増加したことにより給水収益が前年度に比べ微増となりました。支出面においては、撤去工事費が減少したことなどにより、当年度は1億1千8百万円余の純利益を計上しました。

<下水道事業>

収入面においては、うるう年の影響などにより下水道使用料が前年度に比べ微増となりましたが、雨水処理費負担金等は対象経費の減少により減収となりました。支出面においては、人件費の削減に努めるとともに、高利率の企業債が減って支払利息が減少したことなどにより、当年度は18億6百万円余の純利益を計上しました。

2 業務量

(1) 水道事業

区 分	平成27年度	平成26年度	備 考
給水区域内人口 (人)	2,427,191	2,405,094	年度末現在 (A)
給 水 人 口 (人)	2,427,184	2,405,085	〃 (B)
普 及 率 (%)	100.0	100.0	〃 (B/A)
給 水 戸 数 (戸)	1,274,034	1,261,582	〃
配 水 管 延 長 (m)	8,361,930	8,351,546	〃
年 間 給 水 量 (m ³)	278,714,890	277,928,133	(C)
1 日 平 均 給 水 量 (m ³)	761,516	761,447	
1 日 最 大 給 水 量 (m ³)	865,934	849,331	
1 日 最 大 給 水 量 記 録 日	7月14日	7月16日	
年 間 有 収 水 量 (m ³)	261,549,515	260,822,925	(D)
有 収 率 (%)	93.8	93.8	(D/C)

(注) ・「有収水量」とは、給水量のうち、料金徴収の対象となった水量です。
 ・「有収率」とは、有収水量を給水量で割った値です。

(2) 工業用水道事業

区 分	平成27年度	平成26年度	備 考
年 間 給 水 量 (m ³)	22,507,053	22,489,302	
1 日 平 均 給 水 量 (m ³)	61,495	61,615	
事 業 所 数 (事業所)	113	110	年度末現在
配 水 管 延 長 (m)	101,539	101,634	〃

(3) 下水道事業

区 分	平成27年度	平成26年度	備 考
処 理 面 積 (ha)	28,934	28,885	年度末現在
行政区域内人口 (人)	2,295,328	2,274,511	〃 (A)
処理区域内人口 (人)	2,278,600	2,257,700	〃 (B)
人 口 普 及 率 (%)	99.3	99.3	〃 (B/A)
処理区域内戸数 (戸)	1,211,503	1,199,050	〃 (C)
水 洗 化 戸 数 (戸)	1,208,617	1,196,335	〃 (D)
水 洗 化 率 (%)	99.8	99.8	〃 (D/C)
下 水 管 延 長 (m)	7,824,788	7,782,709	〃
水処理センター (箇所)	15	15	〃
年 間 処 理 水 量 (m ³)	446,833,500	418,399,700	
1 日 平 均 処 理 水 量 (m ³)	1,220,857	1,146,301	
年 間 有 収 水 量 (m ³)	258,836,866	257,491,030	
ポ ン プ 施 設 (箇所)	52	52	年度末現在
年 間 排 水 量 (m ³)	125,748,100	106,233,100	

- (注) ・ ポンプ施設には、水処理センター内施設 (11箇所) を含みます。
 ・ 「有収水量」とは、処理水量のうち、使用料徴収の対象となった水量です。
 ・ 「排水量」とは、ポンプ所などから河川に排水した雨水の水量です。

3 決算報告

(1) 水道事業

(イ) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額		
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
第1款水道事業収益	49,894,063,000	—	—
第1項営業収益	48,916,723,000	—	—
給水収益	45,699,000,000	—	—
工事収益	1,653,578,000	—	—
他会計負担金	1,441,569,000	—	—
その他の営業収益	122,576,000	—	—
第2項営業外収益	967,340,000	—	—
受取利息及び配当金	35,739,000	—	—
他会計負担金	167,754,000	—	—
長期前受金戻入	417,344,000	—	—
雑収益	346,503,000	—	—
第3項特別利益	10,000,000	—	—
固定資産売却益	0	—	—
過年度損益修正益	10,000,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
49,894,063,000	49,894,807,232	744,232	
48,916,723,000	48,606,698,693	△ 310,024,307	
45,699,000,000	45,275,898,662	△ 423,101,338	水道料金
1,653,578,000	1,783,362,096	129,784,096	
1,441,569,000	1,433,063,314	△ 8,505,686	消火栓関係経費、共通経費負担金
122,576,000	114,374,621	△ 8,201,379	給水工事審査収入等
967,340,000	1,046,175,280	78,835,280	
35,739,000	44,819,189	9,080,189	預金利子等
167,754,000	166,978,000	△ 776,000	水道料金特例措置、児童手当負担金
417,344,000	406,326,980	△ 11,017,020	減価償却等に伴う長期前受金の戻入
346,503,000	428,051,111	81,548,111	土地・建物使用料等
10,000,000	241,933,259	231,933,259	
0	232,845,955	232,845,955	
10,000,000	9,087,304	△ 912,696	

支 出

区 分	予 算				地方公 営企業 法第24 条第3 項の規 定に よる 支出額
	当初予算額	補 正 予算額	予備費 支出額	流用増減額	
第1款 水道 経 営 費	49,736,063,000	—	—	—	—
第1項 営 業 費 用	40,991,493,000	—	—	—	—
原水及び浄水費	5,222,460,000	—	—	△ 200,927,154	—
配 水 費	10,588,572,000	—	—	127,417,235	—
給 水 費	3,726,615,000	—	—	△ 173,834,037	—
給水受託工事費	881,707,000	—	—	81,184,152	—
業 務 費	3,608,220,000	—	—	43,042,676	—
総 係 費	2,026,635,000	—	—	123,117,128	—
減 価 償 却 費	14,354,377,000	—	—	—	—
資 産 減 耗 費	498,064,000	—	—	—	—
他 会 計 負 担 金	84,843,000	—	—	—	—
第2項 営 業 外 費 用	7,640,383,000	—	—	—	—
支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	2,158,570,000	—	—	△ 28,256,365	—
施 設 改 良 費	3,100,000,000	—	—	—	—
消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	1,193,173,000	—	—	167,917,200	—
消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	1,178,640,000	—	—	△ 139,660,835	—
雑 支 出	10,000,000	—	—	—	—
第3項 特 別 損 失	1,094,187,000	—	—	—	—
過 年 度 損 益 損 修 正 損	50,000,000	—	—	—	—
そ の 他 特 別 損 失	1,044,187,000	—	—	—	—
第4項 予 備 費	10,000,000	—	—	—	—
予 備 費	10,000,000	—	—	—	—

(単位：円、税込)

額		合計	決算額	地方公営 企業第26 項に繰越 額	公営第2 法第26 条の規 定額	不用額	備考
小計	地方公 営企業 法第26 条第2 項に規 定によ る繰越 額						
49,736,063,000	—	49,736,063,000	49,084,433,474	52,358,400	599,271,126		
40,991,493,000	—	40,991,493,000	40,500,559,025	52,358,400	438,575,575		
5,021,532,846	—	5,021,532,846	4,902,013,148	—	119,519,698	取水場から浄水場ま での維持運営費	
10,715,989,235	—	10,715,989,235	10,652,475,725	52,358,400	11,155,110	第3次配水管網整備費及 び配水施設の維持管理費	
3,552,780,963	—	3,552,780,963	3,399,459,820	—	153,321,143	給水施設の維持管理費	
962,891,152	—	962,891,152	952,971,992	—	9,919,160		
3,651,262,676	—	3,651,262,676	3,538,939,899	—	112,322,777	料金徴収等業務運営費	
2,149,752,128	—	2,149,752,128	2,083,303,716	—	66,448,412	経営管理費	
14,354,377,000	—	14,354,377,000	14,444,453,950	—	△ 90,076,950		
498,064,000	—	498,064,000	442,444,567	—	55,619,433		
84,843,000	—	84,843,000	84,496,208	—	346,792	事務費負担金	
7,640,383,000	—	7,640,383,000	7,528,815,039	—	111,567,961		
2,130,313,635	—	2,130,313,635	2,028,745,674	—	101,567,961	利子及び手数料等	
3,100,000,000	—	3,100,000,000	3,100,000,000	—	0	施設改良等の資本的支出 に充てる補てん費	
1,361,090,200	—	1,361,090,200	1,361,090,200	—	0		
1,038,979,165	—	1,038,979,165	1,038,979,165	—	0		
10,000,000	—	10,000,000	0	—	10,000,000		
1,094,187,000	—	1,094,187,000	1,055,059,410	—	39,127,590		
50,000,000	—	50,000,000	10,872,472	—	39,127,528		
1,044,187,000	—	1,044,187,000	1,044,186,938	—	62	退職給付引当金	
10,000,000	—	10,000,000	0	—	10,000,000		
10,000,000	—	10,000,000	0	—	10,000,000		

(ロ) 資本的収入及び支出

収入

区 分	予 算			地方公営企業の 法第26条による 規定に係る繰越 額に充てる財源	継続費の繰越 額に充てる財源
	当初予算額	補正予算額	小 計		
第1款 資本的収入	6,523,330,000	—	6,523,330,000	2,000,000,000	—
第1項 企業債	4,000,000,000	—	4,000,000,000	2,000,000,000	—
水道事業債	4,000,000,000	—	4,000,000,000	2,000,000,000	—
第2項 出資金	193,000,000	—	193,000,000	—	—
一般会計 出資金	193,000,000	—	193,000,000	—	—
第3項 国庫補助金	287,747,000	—	287,747,000	—	—
国庫補助金	287,747,000	—	287,747,000	—	—
第4項 他会計貸付金 返還金	133,916,000	—	133,916,000	—	—
他会計貸付金 返還金	133,916,000	—	133,916,000	—	—
第5項 基金収入	48,847,000	—	48,847,000	—	—
基金収入	48,847,000	—	48,847,000	—	—
第6項 基金繰入金	43,727,000	—	43,727,000	—	—
基金繰入金	43,727,000	—	43,727,000	—	—
第7項 その他の 資本収入	1,816,093,000	—	1,816,093,000	—	—
基本工事収入	981,828,000	—	981,828,000	—	—
工費収入	771,849,000	—	771,849,000	—	—
固定資産 売却の その他収入	0	—	0	—	—
その他収入	62,416,000	—	62,416,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
8,523,330,000	6,389,419,195	△ 2,133,910,805	
6,000,000,000	4,000,000,000	△ 2,000,000,000	
6,000,000,000	4,000,000,000	△ 2,000,000,000	第3次水道基幹施設整備費に充てる起債
193,000,000	193,000,000	0	
193,000,000	193,000,000	0	水源施設建設負担金に充てる出資金
287,747,000	265,237,000	△ 22,510,000	
287,747,000	265,237,000	△ 22,510,000	生活基盤施設耐震化等交付金等
133,916,000	133,915,129	△ 871	
133,916,000	133,915,129	△ 871	工業用水道事業会計からの貸付金返還金
48,847,000	4,437,981	△ 44,409,019	
48,847,000	4,437,981	△ 44,409,019	
43,727,000	32,834,397	△ 10,892,603	
43,727,000	32,834,397	△ 10,892,603	
1,816,093,000	1,759,994,688	△ 56,098,312	
981,828,000	1,058,934,600	77,106,600	基本工事費収入
771,849,000	611,694,642	△ 160,154,358	配水管布設工事収入
0	46,658,114	46,658,114	
62,416,000	42,707,332	△ 19,708,668	メータ負担金等

支 出

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額
	当初予算額	補正 予算額	流用 増減額	小 計		
第1款 資本的支出	25,505,108,000	—	—	25,505,108,000	8,176,424,141	—
第1項 建設改良費	18,484,194,000	—	—	18,484,194,000	8,176,424,141	—
施設費	871,801,000	—	—	871,801,000	458,057,160	—
浄水施設 増補改良費	8,225,913,000	—	—	8,225,913,000	2,989,237,161	—
配水施設 増補改良費	9,107,754,000	—	—	9,107,754,000	4,729,129,820	—
リース資産 購入費	278,726,000	—	—	278,726,000	—	—
第2項 償還金	6,964,888,000	—	—	6,964,888,000	—	—
企業債 償還金	5,266,310,000	—	—	5,266,310,000	—	—
水資源機 構金	1,698,578,000	—	—	1,698,578,000	—	—
第3項 投資	56,026,000	—	—	56,026,000	—	—
基金造成費	56,026,000	—	—	56,026,000	—	—

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 17,670,393,505円は、留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
33,681,532,141	24,059,812,700	7,636,158,593	—	7,636,158,593	1,985,560,848	
26,660,618,141	17,277,259,161	7,636,158,593	—	7,636,158,593	1,747,200,387	
1,329,858,160	1,000,678,719	35,043,840	—	35,043,840	294,135,601	固定資産の取得費等
11,215,150,161	7,424,923,253	2,887,003,047	—	2,887,003,047	903,223,861	第3次水道基幹施設 整備費等
13,836,883,820	8,600,961,649	4,714,111,706	—	4,714,111,706	521,810,465	第3次配水管網整備 費等
278,726,000	250,695,540	—	—	—	28,030,460	情報システム機器の リース料
6,964,888,000	6,778,115,558	—	—	—	186,772,442	
5,266,310,000	5,266,309,220	—	—	—	780	
1,698,578,000	1,511,806,338	—	—	—	186,771,662	水源施設建設負担金
56,026,000	4,437,981	—	—	—	51,588,019	
56,026,000	4,437,981	—	—	—	51,588,019	水道事業基金造成費

【3 決算報告（水道）】

（ハ）損益計算書

（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）

（単位 円、税抜）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	39,366,818,888	営業収益	45,093,922,599
原水及び浄水費	4,671,314,625	給水収益	41,924,200,270
配水費	10,045,090,340	工事収益	1,726,626,461
給水費	3,289,998,651	他会計負担金	1,330,567,516
給水受託工事費	891,123,739	その他の営業収益	112,528,352
業務費	3,440,619,984	営業外収益	1,039,151,879
総係費	2,061,044,062	受取利息及び配当金	44,819,189
減価償却費	14,444,453,950	他会計負担金	166,978,000
資産減耗費	442,444,567	長期前受金戻入	406,326,980
他会計負担金	80,728,970	雑収益	421,027,710
営業外費用	5,142,934,180	特別利益	241,401,456
支払利息及び	2,027,468,728	固定資産売却益	232,795,460
企業債取扱諸費	3,100,000,000	過年度損益修正益	8,605,996
施設改良費	15,465,452		
特別損失	1,054,349,108		
過年度損益修正損	10,162,170		
その他特別損失	1,044,186,938		
当年度純利益	810,373,758		
計	46,374,475,934	計	46,374,475,934
前年度繰越利益剰余金	820,050,425		
その他未処分利益	507,151,560		
剰余金変動額			
当年度未処分	2,137,575,743		
利益剰余金			

（二）剰余金処分計算書（案）について

当年度未処分利益剰余金2,137,575,743円については、1,630,424,183円（当年度純利益相当額及び前年度繰越利益剰余金相当額）を建設改良積立金に積立処分し、507,151,560円（その他未処分利益剰余金変動額相当額）を資本金へ組入処分するものです。

(ホ) 貸借対照表

(平成28年3月31日)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	347,116,570,037	固定負債	115,429,490,552
有形固定資産	293,385,799,934	企業債	87,823,079,897
土地	10,591,628,098	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	87,823,079,897
建物	39,197,473,967	水資源機構資金	15,002,343,241
構築物	438,516,465,432	リース債務	497,808,990
機械及び装置	74,402,472,595	引当金	12,106,258,424
車両運搬具	451,449,445	退職給付引当金	9,588,183,718
工具器具及び備品	870,843,331	修繕引当金	2,518,074,706
リース資産	961,883,350	流動負債	30,499,592,670
建設仮勘定	10,268,531,382	企業債	5,547,264,772
減価償却累計額	△ 281,874,947,666	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	5,547,264,772
無形固定資産	44,418,131,265	水資源機構資金	1,334,553,108
水利権	292,579,336	リース債務	255,061,872
ダム使用権	35,500,669,333	他会計運用資金	7,800,000,000
庁舎利用権	560,426,602	未払金	11,259,788,678
施設利用権	6,338,589,481	前受金	1,568,933,364
その他無形固定資産	1,725,866,513	引当金	710,790,560
投資	9,312,638,838	賞与引当金	710,790,560
投資有価証券	320,000,000	その他流動負債	2,023,200,316
長期貸付金	6,797,490,704	繰延収益	16,228,198,378
基金	2,183,732,134	長期前受金	18,715,376,080
その他投資	11,416,000	収益化累計額	△ 2,487,177,702
流動資産	54,991,899,953	資本金	236,972,994,736
現金預金	48,821,518,844	剰余金	2,978,193,654
未収金	3,988,628,517	資本剰余金	20,567,485
貸倒引当金	△ 25,427,239	受贈財産評価額	20,567,485
短期貸付金	134,384,242	利益剰余金	2,957,626,169
前払費用	4,436,231	建設改良積立金	820,050,426
前払金	2,055,630,000	当年度未処分 利益剰余金	2,137,575,743
その他流動資産	12,729,358		
計	402,108,469,990	計	402,108,469,990

(2) 工業用水道事業

(イ) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額		
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
第1款 工業用水道事業収益	986,923,000	—	—
第1項 営 業 収 益	861,257,000	—	—
給 水 収 益	847,798,000	—	—
受 託 工 事 収 益	13,459,000	—	—
第2項 営 業 外 収 益	125,166,000	—	—
受取利息及び配当金	528,000	—	—
他 会 計 負 担 金	320,000	—	—
長 期 前 受 金 戻 入	123,024,000	—	—
雑 収 益	1,294,000	—	—
第3項 特 別 利 益	500,000	—	—
過 年 度 損 益 修 正 益	500,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
986,923,000	998,154,205	11,231,205	
861,257,000	873,826,471	12,569,471	
847,798,000	854,245,190	6,447,190	工業用水道料金
13,459,000	19,581,281	6,122,281	
125,166,000	124,327,734	△ 838,266	
528,000	1,127,067	599,067	預金利子等
320,000	120,000	△ 200,000	児童手当負担金
123,024,000	122,851,007	△ 172,993	減価償却等に伴う長期前受金の戻入
1,294,000	229,660	△ 1,064,340	
500,000	0	△ 500,000	
500,000	0	△ 500,000	

支 出

区 分	予 算				地方公 営企業 法第24 条第3 項の 規定に よる 支出額
	当初予算額	補 正 予算額	予備費 支出額	流用増減額	
第1款 工業用水道経営費	981,923,000	—	—	—	—
第1項 営業費用	904,377,000	—	—	△ 4,306,029	—
供給費	302,562,000	—	—	△ 4,306,029	—
減価償却費	530,199,000	—	—	—	—
資産減耗費	33,607,000	—	—	—	—
他会計負担金	38,009,000	—	—	—	—
第2項 営業外費用	76,046,000	—	1,000,000	4,306,029	—
支払利息及び 企業債取扱諸費	25,056,000	—	—	△ 101,716	—
施設改良費	10,000,000	—	—	—	—
消費税及び 地方消費税	5,082,000	—	1,000,000	31,233,700	—
消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	34,908,000	—	—	△ 25,825,955	—
雑支出	1,000,000	—	—	△ 1,000,000	—
第3項 特別損失	500,000	—	—	—	—
過年度損益 修正損	500,000	—	—	—	—
第4項 予備費	1,000,000	—	△ 1,000,000	—	—
予備費	1,000,000	—	△ 1,000,000	—	—

(単位 円、税込)

額		合 計	決 算 額	地方公 営企業 法第26 条第2 項の規 定による 繰越額	不 用 額	備 考
小 計	地方公 営企業 法第26 条第2 項の規 定による 繰越額					
981,923,000	—	981,923,000	879,300,108	—	102,622,892	
900,070,971	—	900,070,971	797,907,396	—	102,163,575	
298,255,971	—	298,255,971	217,714,093	—	80,541,878	業務及び維持経営費
530,199,000	—	530,199,000	537,426,404	—	△ 7,227,404	
33,607,000	—	33,607,000	4,759,304	—	28,847,696	
38,009,000	—	38,009,000	38,007,595	—	1,405	共通経費負担金
81,352,029	—	81,352,029	81,352,029	—	0	
24,954,284	—	24,954,284	24,954,284	—	0	利子
10,000,000	—	10,000,000	10,000,000	—	0	施設改良等の資本的支出に充てる補てん費
37,315,700	—	37,315,700	37,315,700	—	0	
9,082,045	—	9,082,045	9,082,045	—	0	
0	—	0	0	—	0	
500,000	—	500,000	40,683	—	459,317	
500,000	—	500,000	40,683	—	459,317	
0	—	0	0	—	0	
0	—	0	0	—	0	

(口) 資本的収入及び支出

収入

区 分	予 算 額			地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額に係る 財源充当額	継続費 繰次 繰越額に係る 財源充当額
	当初予算額	補 予 算 正 額	小 計		
第1款 資本的収入	13,337,000	—	13,337,000	—	—
第1項 出 資 金	2,486,000	—	2,486,000	—	—
一般会計 出 資 金	2,486,000	—	2,486,000	—	—
第2項 その 他 資 本 収 入	10,851,000	—	10,851,000	—	—
工 費 収 入	10,800,000	—	10,800,000	—	—
固 定 資 産 売 却 代	51,000	—	51,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
13,337,000	2,643,248	△ 10,693,752	
2,486,000	1,931,000	△ 555,000	
2,486,000	1,931,000	△ 555,000	水源施設建設負担金に充てる出資金
10,851,000	712,248	△ 10,138,752	
10,800,000	661,488	△ 10,138,512	配水管布設工事収入
51,000	50,760	△ 240	

支 出

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額
	当初予算額	補正 予算額	流用 増減額	小 計		
第1款 資本的支出	631,473,000	—	—	631,473,000	68,018,400	—
第1項 建設改良費	491,813,000	—	—	491,813,000	68,018,400	—
施設費	483,528,000	—	—	483,528,000	68,018,400	—
建設費	8,285,000	—	—	8,285,000	—	—
第2項 償還金	5,744,000	—	—	5,744,000	—	—
企業債金	5,744,000	—	—	5,744,000	—	—
第3項 他会計金	133,916,000	—	—	133,916,000	—	—
他借返 他会計金	133,916,000	—	—	133,916,000	—	—

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 271,725,292円は、留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰 越 額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
699,491,400	274,368,540	253,614,567	—	253,614,567	171,508,293	
559,831,400	134,709,818	253,614,567	—	253,614,567	171,507,015	
551,546,400	128,271,159	253,614,567	—	253,614,567	169,660,674	施設の建設改良費等
8,285,000	6,438,659	—	—	—	1,846,341	水源施設建設負担金
5,744,000	5,743,593	—	—	—	407	
5,744,000	5,743,593	—	—	—	407	
133,916,000	133,915,129	—	—	—	871	
133,916,000	133,915,129	—	—	—	871	水道事業会計への借入金返還金

【3 決算報告（工水）】

(ハ) 損益計算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	780,968,539	営業収益	810,507,777
供給費	203,586,913	給水収益	790,968,369
減価償却費	537,426,404	受託工事収益	19,539,408
資産減耗費	4,759,304	営業外収益	124,310,950
他会計負担金	35,195,918	受取利息及び配当金	1,127,067
営業外費用	34,958,297	他会計負担金	120,000
支払利息及び 企業債取扱諸費	24,954,284	長期前受金戻入	122,851,007
施設改良費	10,000,000	雑収益	212,876
雑支出	4,013		
特別損失	37,794		
過年度損益修正損	37,794		
当年度純利益	118,854,097		
計	934,818,727	計	934,818,727
前年度繰越利益剰余金	35,258,510		
その他未処分利益 剰余金変動額	54,176,084		
当年度未処分 利益剰余金	208,288,691		

(二) 剰余金処分計算書（案）について

当年度未処分利益剰余金208,288,691円については、54,112,607円（当年度純利益相当額及び前年度繰越利益剰余金相当額の一部）を建設改良積立金に積立処分し、54,176,084円（その他未処分利益剰余金変動額相当額）を資本金へ組入処分するものです。残額の100,000,000円については、繰越利益剰余金として翌年度へ繰り越すこととします。

(ホ) 貸借対照表

(平成28年3月31日)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	16,912,573,893	固 定 負 債	6,874,000,696
有 形 固 定 資 産	5,344,912,721	他 会 計 借 入 金	6,797,490,704
土 地	149,644,690	建設改良費等の財源に 充てるための長期借入金	6,797,490,704
建 物	442,916,823	引 当 金	76,509,992
構 築 物	9,409,442,813	退職給付引当金	6,022,522
機 械 及 び 装 置	2,429,660,870	修 繕 引 当 金	70,487,470
工 具 器 具 及 び 備 品	8,935,670	流 動 負 債	225,015,445
建 設 仮 勘 定	99,062,858	企 業 債	2,732,405
減 価 償 却 累 計 額	△ 7,194,751,003	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	2,732,405
無 形 固 定 資 産	11,567,661,172	他 会 計 借 入 金	134,384,242
水 利 権	262,162,329	建設改良費等の財源に 充てるための長期借入金	134,384,242
ダ ム 使 用 権	11,252,428,721	未 払 金	84,830,569
庁 舎 利 用 権	255,956	前 受 金	1,391,384
その他無形固定資産	52,814,166	引 当 金	1,676,845
流 動 資 産	2,174,855,223	賞 与 引 当 金	1,676,845
現 金 預 金	1,193,716,866	繰 延 収 益	4,735,217,096
未 収 金	37,721,657	長 期 前 受 金	4,781,708,042
運 用 金	900,000,000	収 益 化 累 計 額	△ 46,490,946
前 払 金	41,300,000	資 本 金	6,976,050,113
その他流動資産	2,116,700	剰 余 金	277,145,766
		利 益 剰 余 金	277,145,766
		建設改良積立金	68,857,075
		当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	208,288,691
計	19,087,429,116	計	19,087,429,116

(3) 下水道事業

(イ) 収益的収入及び支出

収入

区 分	予 算 額		
	当初予算額	補正予算額	地方公営企業法第24条 第3項の規定による支 出額に係る財源充当額
第1款 下水道事業収益	75,333,461,000	—	—
第1項 営業収益	70,735,108,000	—	—
下水道使用料	33,428,000,000	—	—
他会計負担金	35,891,159,000	—	—
受託工事収益	1,319,398,000	—	—
その他の営業収益	96,551,000	—	—
第2項 営業外収益	4,593,353,000	—	—
受取利息及び配当金	2,625,000	—	—
他会計負担金	203,750,000	—	—
他会計補助金	5,155,000	—	—
長期前受金戻入	3,812,401,000	—	—
消費税及び 地方消費税還付金	269,855,000	—	—
雑 収 益	299,567,000	—	—
第3項 特別利益	5,000,000	—	—
固定資産売却益	0	—	—
過年度損益修正益	5,000,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考																								
75,333,461,000	75,664,557,288	331,096,288																									
70,735,108,000	71,007,488,408	272,380,408																									
33,428,000,000	33,774,807,012	346,807,012																									
35,891,159,000	35,762,752,757	△ 128,406,243	雨水処理費、緊急雨水整備事業費及び高度処理費負担金 (参考) 雨水処理費負担金の算定内訳 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象経費 (千円)</th> <th>雨水 負担率</th> <th>雨水負担額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>維持管理費</td> <td>22,295,384</td> <td>34.7%</td> <td>7,745,246</td> </tr> <tr> <td>資 本 費</td> <td>40,790,763</td> <td>59.9%</td> <td>24,427,754</td> </tr> <tr> <td>小 計</td> <td>63,086,147</td> <td>51.0%</td> <td>32,173,000</td> </tr> <tr> <td>精算分(平成25年度)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>337,505</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>63,086,147</td> <td>51.5%</td> <td>32,510,505</td> </tr> </tbody> </table> (備考) 下水道経営費 75,231,461 (平成27年度予算) 控 除 額 等 △ 12,145,314 対 象 経 費 63,086,147		対象経費 (千円)	雨水 負担率	雨水負担額 (千円)	維持管理費	22,295,384	34.7%	7,745,246	資 本 費	40,790,763	59.9%	24,427,754	小 計	63,086,147	51.0%	32,173,000	精算分(平成25年度)	—	—	337,505	合 計	63,086,147	51.5%	32,510,505
	対象経費 (千円)	雨水 負担率	雨水負担額 (千円)																								
維持管理費	22,295,384	34.7%	7,745,246																								
資 本 費	40,790,763	59.9%	24,427,754																								
小 計	63,086,147	51.0%	32,173,000																								
精算分(平成25年度)	—	—	337,505																								
合 計	63,086,147	51.5%	32,510,505																								
1,319,398,000	1,374,818,130	55,420,130																									
96,551,000	95,110,509	△ 1,440,491	生産物売却代等																								
4,593,353,000	4,625,675,056	32,322,056																									
2,625,000	5,468,054	2,843,054	預金利子等																								
203,750,000	205,750,000	2,000,000	下水道使用料特例措置、水質規制経費、水洗便所普及 事務費及び児童手当負担金																								
5,155,000	3,820,000	△ 1,335,000	水洗便所普及助成費補助金																								
3,812,401,000	3,887,284,525	74,883,525	減価償却等に伴う長期前受金の戻入																								
269,855,000	198,080,607	△ 71,774,393																									
299,567,000	325,271,870	25,704,870	土地・建物使用料等																								
5,000,000	31,393,824	26,393,824																									
0	24,560,904	24,560,904																									
5,000,000	6,832,920	1,832,920																									

【3 決算報告（下水）】

支 出

区 分	予 算				地方公 営企業 法第24 条第3 項の規 定に よる 支出額
	当初予算額	補 正 予算額	予備費 支出額	流用増減額	
第1款 下水道経営費	75,231,461,000	—	—	—	—
第1項 営業費用	62,779,560,000	—	—	—	—
下水管費	5,324,005,000	—	—	454,509,096	—
処理場費	7,092,727,000	—	—	△ 212,097,739	—
汚泥処理場費	4,087,541,000	—	—	△ 454,509,096	—
ポンプ所費	2,717,807,000	—	—	151,749,835	—
受託工事費	1,503,863,000	—	—	138,454,912	—
総 係 費	2,170,750,000	—	—	△ 78,107,008	—
減価償却費	35,884,010,000	—	—	—	—
資産減耗費	2,606,643,000	—	—	—	—
他会計負担金	1,392,214,000	—	—	—	—
第2項 営業外費用	11,729,842,000	—	—	—	—
支払利息及び 企業債取扱諸費	9,659,968,000	—	—	—	—
水洗便所費	98,169,000	—	—	—	—
消費税及び地方消費税 資本的収支調整額	1,970,705,000	—	—	—	—
雑 支 出	1,000,000	—	—	—	—
第3項 特別損失	712,059,000	—	—	—	—
固定資産売却損	6,942,000	—	—	—	—
過年度損益損 修 正 損	30,000,000	—	—	—	—
その他特別損失	675,117,000	—	—	—	—
第4項 予 備 費	10,000,000	—	—	—	—
予 備 費	10,000,000	—	—	—	—

(単位 円、税込)

額		合計	決算額	地方公 営企業 法第26 条第2 項の規 定によ る繰越 額	不用額	備考
小計	地方公 営企業 法第26 条の規 定によ る繰越 額					
75,231,461,000	115,641,000	75,347,102,000	73,857,599,166	—	1,489,502,834	
62,779,560,000	115,641,000	62,895,201,000	62,002,879,417	—	892,321,583	
5,778,514,096	—	5,778,514,096	5,745,332,382	—	33,181,714	下水管の維持管理費
6,880,629,261	—	6,880,629,261	6,820,179,307	—	60,449,954	下水処理施設の維持管理費
3,633,031,904	115,641,000	3,748,672,904	3,588,209,345	—	160,463,559	汚泥処理施設の維持管理費
2,869,556,835	—	2,869,556,835	2,869,556,835	—	0	ポンプ施設の維持管理費
1,642,317,912	—	1,642,317,912	1,636,352,857	—	5,965,055	
2,092,642,992	—	2,092,642,992	2,026,181,763	—	66,461,229	経営管理費
35,884,010,000	—	35,884,010,000	35,700,183,676	—	183,826,324	
2,606,643,000	—	2,606,643,000	2,233,487,070	—	373,155,930	
1,392,214,000	—	1,392,214,000	1,383,396,182	—	8,817,818	共通経費負担金
11,729,842,000	—	11,729,842,000	11,170,827,430	—	559,014,570	
9,659,968,000	—	9,659,968,000	9,181,305,863	—	478,662,137	利子及び手数料等
98,169,000	—	98,169,000	53,607,939	—	44,561,061	水洗便所普及費
1,970,705,000	—	1,970,705,000	1,935,913,628	—	34,791,372	
1,000,000	—	1,000,000	0	—	1,000,000	
712,059,000	—	712,059,000	683,892,319	—	28,166,681	
6,942,000	—	6,942,000	0	—	6,942,000	
30,000,000	—	30,000,000	8,775,272	—	21,224,728	
675,117,000	—	675,117,000	675,117,047	—	△ 47	退職給付引当金
10,000,000	—	10,000,000	0	—	10,000,000	
10,000,000	—	10,000,000	0	—	10,000,000	

（ロ） 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予 算 額			地方公営企業の 法第26条による 繰越額に係る 財源充当額	継続費 繰越額 に係る財 源充当額
	当初予算額	補正予算額	小 計		
第1款 資 本 的 収 入	29,801,358,000	—	29,801,358,000	17,054,706,000	—
第1項 企 業 債	20,000,000,000	—	20,000,000,000	12,387,000,000	—
下水道事業債	20,000,000,000	—	20,000,000,000	12,387,000,000	—
第2項 国庫補助金	8,814,000,000	—	8,814,000,000	4,667,706,000	—
国庫補助金	8,814,000,000	—	8,814,000,000	4,667,706,000	—
第3項 そ の 他 入	927,056,000	—	927,056,000	—	—
資 本 収 入	927,056,000	—	927,056,000	—	—
工 費 収 入	912,923,000	—	912,923,000	—	—
固 定 資 産 代	14,133,000	—	14,133,000	—	—
売 却	14,133,000	—	14,133,000	—	—
第4項 水洗便所改造資金 貸付事業収入	60,302,000	—	60,302,000	—	—
企 業 債	17,000,000	—	17,000,000	—	—
他会計借入金	21,000,000	—	21,000,000	—	—
貸付金返還金	22,302,000	—	22,302,000	—	—

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	備 考
46,856,064,000	31,247,433,050	△ 15,608,630,950	
32,387,000,000	20,387,000,000	△ 12,000,000,000	
32,387,000,000	20,387,000,000	△ 12,000,000,000	建設費に充てる起債
13,481,706,000	9,823,311,649	△ 3,658,394,351	
13,481,706,000	9,823,311,649	△ 3,658,394,351	建設費補助金
927,056,000	1,016,674,901	89,618,901	
912,923,000	890,368,389	△ 22,554,611	関連工事費収入等
14,133,000	126,306,512	112,173,512	
60,302,000	20,446,500	△ 39,855,500	
17,000,000	0	△ 17,000,000	
21,000,000	13,000,000	△ 8,000,000	浄化槽廃止貸付金に充てる借入金
22,302,000	7,446,500	△ 14,855,500	

【3 決算報告（下水）】

支 出

区 分	予 算 額				地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額
	当初予算額	補正 予算額	流用 増減額	小 計		
第1款 資本的支出	69,555,067,000	—	—	69,555,067,000	18,715,709,121	—
第1項 建設改良費	39,236,426,000	—	—	39,236,426,000	18,715,709,121	—
施設費	1,235,476,000	—	—	1,235,476,000	149,346,720	—
拡張費	38,000,000,000	—	—	38,000,000,000	18,566,362,401	—
リース資産 購入費	950,000	—	—	950,000	—	—
第2項 償還金	30,267,341,000	—	—	30,267,341,000	—	—
企業債 償還金	30,267,341,000	—	—	30,267,341,000	—	—
第3項 水洗便所改造 資金貸付事業費	51,300,000	—	—	51,300,000	—	—
貸付金	30,300,000	—	—	30,300,000	—	—
他会計借入金 返還金	21,000,000	—	—	21,000,000	—	—

資本的収入額（翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 419,397,850円を除く。）が、繰越工事資金 917,292,000円及び留保資金等で補てんした。

(単位 円、税込)

合 計	決 算 額	翌年度繰越額			不 用 額	備 考
		地方公営企業 法第26条の 規定による 繰越額	継続 費通 次繰 越額	合 計		
88,270,776,121	70,415,464,850	13,148,044,712	—	13,148,044,712	4,707,266,559	
57,952,135,121	40,124,921,007	13,148,044,712	—	13,148,044,712	4,679,169,402	
1,384,822,720	857,230,256	398,947,680	—	398,947,680	128,644,784	固定資産の取得 及び下水管施設 の改良費等
56,566,362,401	39,266,740,783	12,749,097,032	—	12,749,097,032	4,550,524,586	下水道施設の建 設事業費
950,000	949,968	—	—	—	32	情報システム機 器のリース料
30,267,341,000	30,265,384,843	—	—	—	1,956,157	
30,267,341,000	30,265,384,843	—	—	—	1,956,157	
51,300,000	25,159,000	—	—	—	26,141,000	
30,300,000	12,159,000	—	—	—	18,141,000	水洗便所改造資 金等貸付金
21,000,000	13,000,000	—	—	—	8,000,000	

資本的支出額に不足する額 39,582,717,150円（水洗便所改造資金貸付事業収支を除く。）は、

【3 決算報告（下水）】

(ハ) 損益計算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位 円、税抜)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	60,718,508,556	営業収益	68,402,438,351
下水管費	5,416,577,649	下水道使用料	31,275,411,507
処理場費	6,495,802,812	他会計負担金	35,762,752,757
汚泥処理場費	3,345,020,090	受託工事収益	1,276,206,976
ポンプ所費	2,724,656,164	その他の営業収益	88,067,111
受託工事費	1,524,513,899	営業外収益	4,415,371,403
総係費	1,995,458,793	受取利息及び配当金	5,468,054
減価償却費	35,700,183,676	他会計負担金	205,750,000
資産減耗費	2,233,487,070	他会計補助金	3,820,000
他会計負担金	1,282,808,403	長期前受金戻入	3,887,284,525
営業外費用	9,640,130,708	雑収益	313,048,824
支払利息及び		特別利益	31,081,913
企業債取扱諸費	9,177,094,985	固定資産売却益	24,560,904
水洗便所費	52,922,713	過年度損益修正益	6,521,009
雑支出	410,113,010		
特別損失	683,294,281		
過年度損益修正損	8,177,234		
その他特別損失	675,117,047		
当年度純利益	1,806,958,122		
計	72,848,891,667	計	72,848,891,667
前年度繰越利益剰余金	1,380,256,987		
その他未処分利益			
剰余金変動額	763,356,220		
当年度未処分			
利益剰余金	3,950,571,329		

(二) 剰余金処分計算書（案）について

当年度未処分利益剰余金3,950,571,329円については、3,187,215,109円（当年度純利益相当額及び前年度繰越利益剰余金相当額）を建設改良積立金に積立処分し、763,356,220円（その他未処分利益剰余金変動額相当額）を資本金へ組入処分するものです。

(ホ) 貸借対照表

(平成28年3月31日)

(単位 円、税抜)

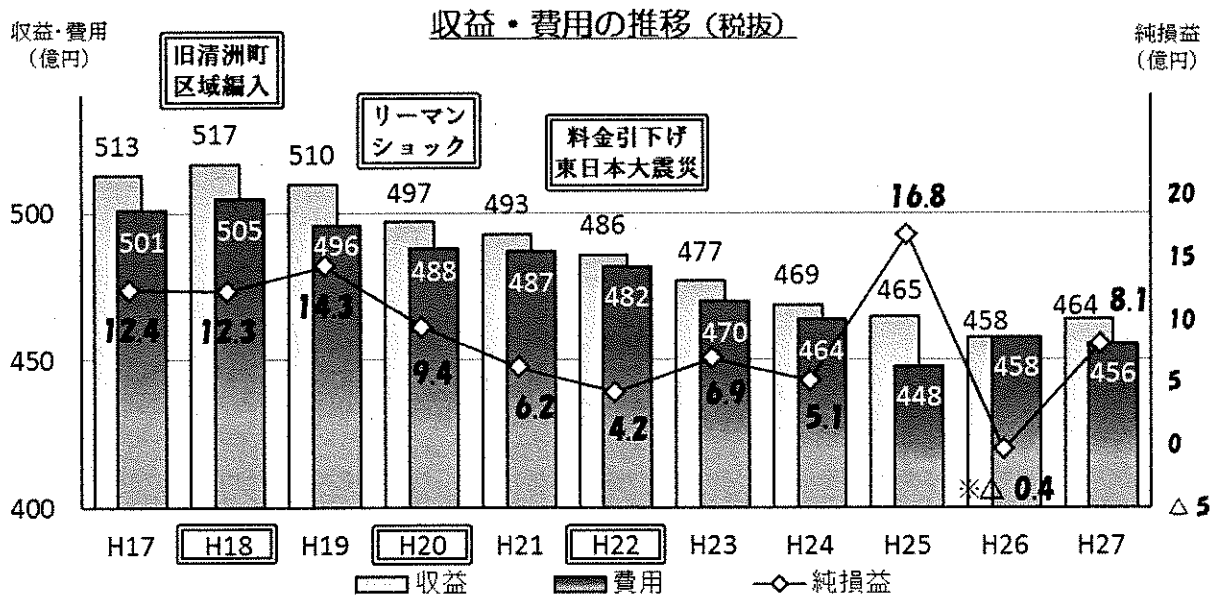
借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	1,024,506,716,514	固定負債	446,988,805,521
有形固定資産	1,022,193,162,800	企業債	442,459,576,147
土地	50,292,365,239	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	442,459,576,147
建物	88,748,560,262	リース債務	1,029,132
構築物	1,281,288,451,239	引当金	4,528,200,242
機械及び装置	282,265,203,630	退職給付引当金	4,528,200,242
車両運搬具	521,943,541	流動負債	46,749,821,497
工具器具及び備品	656,697,655	企業債	29,269,774,740
リース資産	3,518,400	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	29,269,774,740
建設仮勘定	48,716,884,445	リース債務	949,968
減価償却累計額	△ 730,300,461,611	未払金	15,802,140,638
無形固定資産	1,918,895,714	前受金	1,248,176,010
庁舎利用権	344,443,107	引当金	302,288,964
施設利用権	1,470,990,832	賞与引当金	302,288,964
その他無形固定資産	103,461,775	その他流動負債	126,491,177
投資	394,658,000	繰延収益	120,684,898,235
投資有価証券	310,000,000	長期前受金	150,788,436,988
長期貸付金	7,188,000	収益化累計額	△ 30,103,538,753
その他投資	77,470,000	資本金	440,367,148,972
流動資産	40,797,311,239	剰余金	10,513,353,528
現金預金	19,482,212,968	資本剰余金	5,503,133,162
未収金	11,848,044,139	受贈財産評価額	726,133,162
貸倒引当金	△ 19,774,599	国庫補助金	4,777,000,000
短期貸付金	7,623,500	利益剰余金	5,010,220,366
運用金	6,500,000,000	建設改良積立金	1,059,649,037
前払費用	2,592,874	当年度未処分 利益剰余金	3,950,571,329
前払金	2,916,484,000		
その他流動資産	60,128,357		
計	1,065,304,027,753	計	1,065,304,027,753

4 経営概況

（1）水道事業

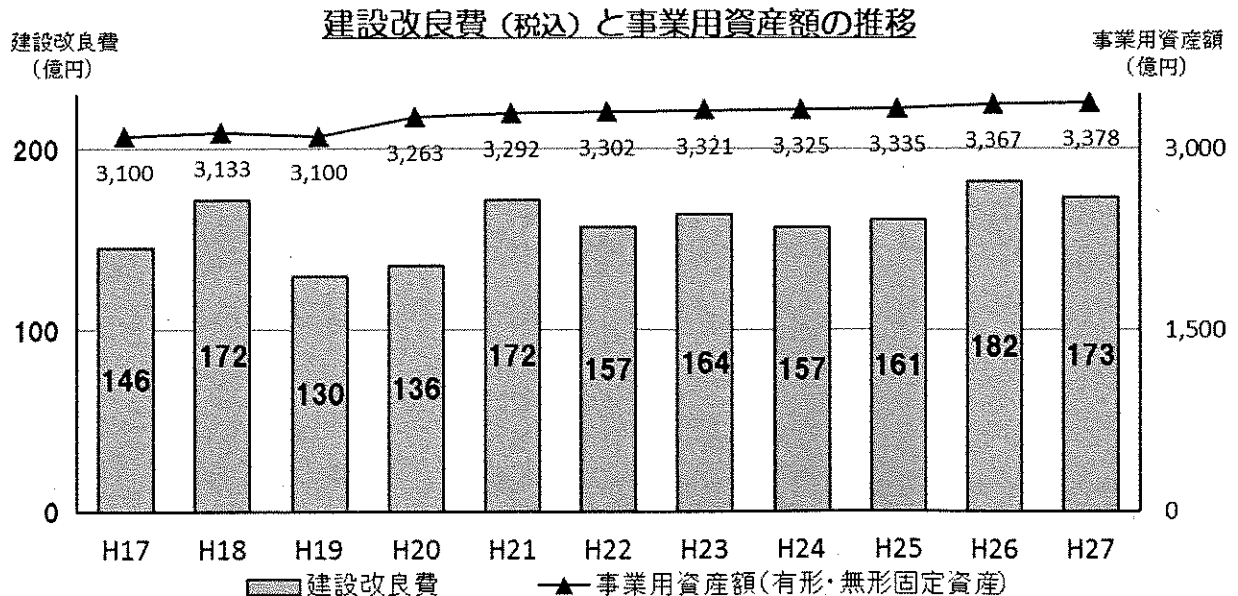
（イ）近年の経営状況

総収益の9割以上を占める水道料金（給水収益）の減少傾向が継続しています。この収益減に対して、人件費や企業債利息等の費用を抑制することで純利益の確保に努めています。



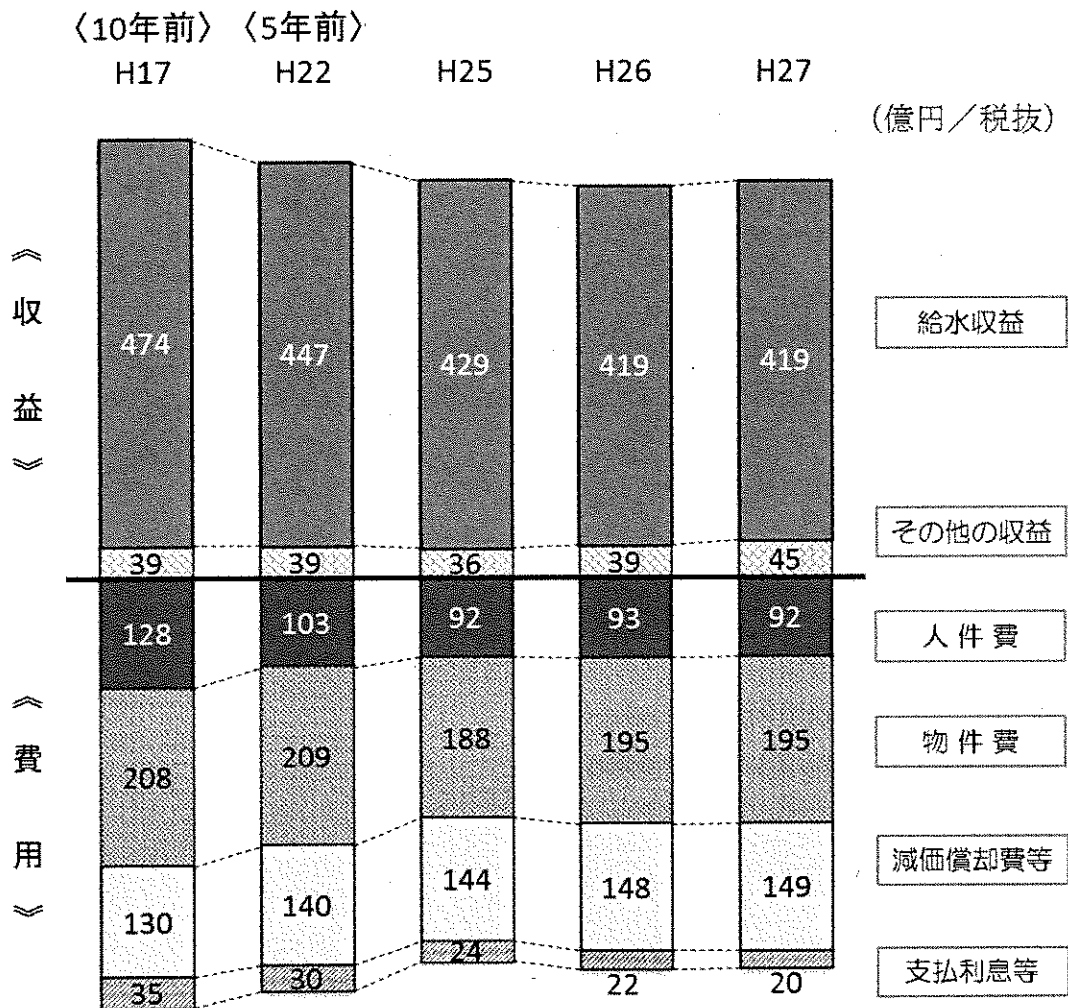
※不発弾発見による工事の遅れに伴い、費用が25年度から26年度に繰り延べられたことによるものです。

建設改良事業では、老朽化した施設や配水管の計画的な更新を実施するとともに、南海トラフ巨大地震を見据えた耐震化等の地震対策をすすめています。



（ロ）主な収益・費用の推移

収益・費用の推移の内訳を表すと、下図のようになります。



収益は、給水収益とその他の収益に、費用は、人件費と物件費、減価償却費等、支払利息等に区分しました。

なお、物件費は主に人件費以外の運営経費、減価償却費等は施設の使用等による資産価値の減少額、支払利息等は建設投資の財源となった企業債から発生した利息等の額を表しています。

このうち、増減のあった主な収益・費用は以下のとおりです。

① 給水収益について

近年では、給水人口は増加しているものの、使用水量の落ち込みにより、直近10年間の平均で約5億4千万円の減少傾向が継続しています。

給水収益と有収水量、給水人口の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
給水収益(億円)	474	447	429	419	419
一般用	344	334	322	316	317
業務用等	130	113	107	103	102
有収水量(百万㎡)	277	271	265	261	262
一般用	238	238	233	230	231
業務用等	39	33	32	31	31
給水人口(万人)	231.5	238.8	239.8	240.5	242.7

② 人件費について

業務の効率化等による職員数の削減をすすめています。近年では、営業所体制の見直し、管路センターの設立、取水場の遠方管理化等の効率化を実施し、人件費の抑制に努めています。

人件費と職員数の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
年度末総職員数(人)	1,485	1,350	1,281	1,311	1,304
総人件費(億円)	133	114	102	104	103
うち、損益勘定人件費(億円)	128	103	92	93	92

③ 支払利息等について

支払利息等は、計画的な企業債残高の縮減に努めたことや、新規発行時や借換時の利率が低水準にあったこと等により、減少傾向となっています。

支払利息等と企業債残高、平均利率の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
支払利息等(億円)	35	30	24	22	20
企業債残高(億円)	1,109	984	959	946	934
平均利率(%)	2.90	2.00	1.80	1.71	1.60

(ハ) 純利益の使途

水道事業では、全国的にみて低い料金水準を維持しつつ純利益の確保に努めています。これまでの純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や減債積立金として積み立ててきており、建設改良事業や企業債の償還の財源として使用することで、設備更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

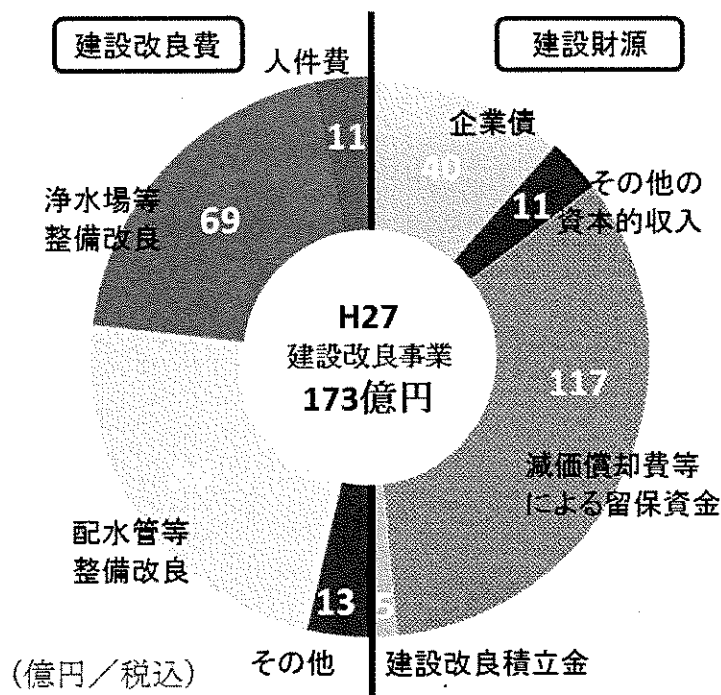
純利益とその用途

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
純利益(億円)	12.4	12.3	14.3	9.4	6.2	4.2	6.9	5.1	16.8	△0.4	8.1
使 途	建設投資財源	0	0	0	4.0	4.0	3.0	6.9	5.1	16.4	8.1
	企業債償還財源	12.4	12.3	14.3	5.4	2.2	1.2	0	0	0	0
	純損失の補填								0.4		

(二) 建設改進黨業と建設財源

建設改進黨業は、資本的支出の建設改進黨費で行う工事等で、設備等の新規・更新取得、機能向上や耐用年数の延伸を伴う改進黨などを実施しています。

下図は、平成 27 年度における建設改進黨費とその建設財源を表しています。図の左側は建設改進黨費の内訳、右側はその財源構成を示しています。



平成 27 年度においては、浄水場等の基幹施設、配水管等における老朽施設の更新や耐震化をすすめました。

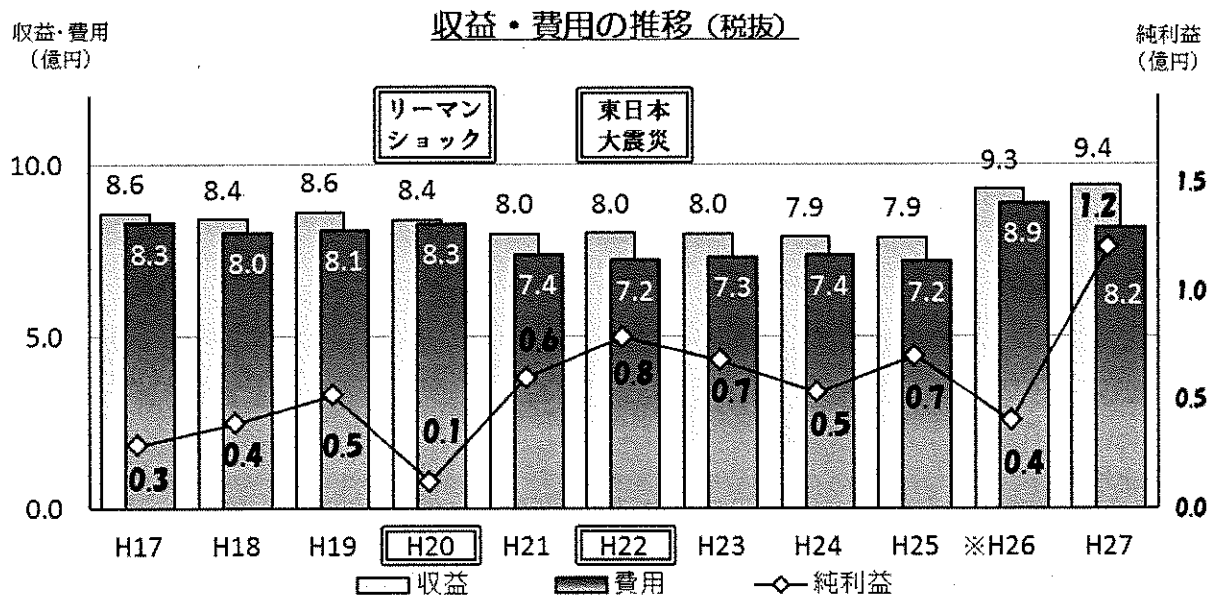
建設財源については、企業債による長期借入金で 40 億円、残額を減価償却費等により留保される資金等で賄っています。なお、企業債による長期借入金は、借入金残高を増加させない金額に抑えています。

（2）工業用水道事業

（イ）近年の経営状況

平成20年度に徳山ダム建設事業費の償還金支払が始まったことを受けて、費用面で大幅な見直しを行い、浄水場の運転管理等を水道事業に委託しました。

その後、工業用水道料金（給水収益）が減少していますが、効率的な事業運営に努めることで純利益を確保しています。



※会計制度の見直しに伴い、長期前受金戻入による収益や減価償却費等による費用が大きく増加しました。

（ロ）給水収益について

給水事業所数は微増となっているものの、10年前と比較し給水量、給水収益共に低い水準で推移しています。

給水収益と給水量、給水事業所の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
給水収益 (億円)	8.5	8.0	7.8	7.9	7.9
給水量 (万㎡)	2,440	2,287	2,230	2,249	2,251
事業所数 (事業所)	107	105	108	110	113

(ハ) 純利益の使途

工業用水道事業では、効率的な事業運営に努めることで純利益を確保しています。この純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や水源施設償還積立金などに積み立ててきており、建設改良事業や徳山ダム建設事業費の償還の財源として使用することで、老朽施設の更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

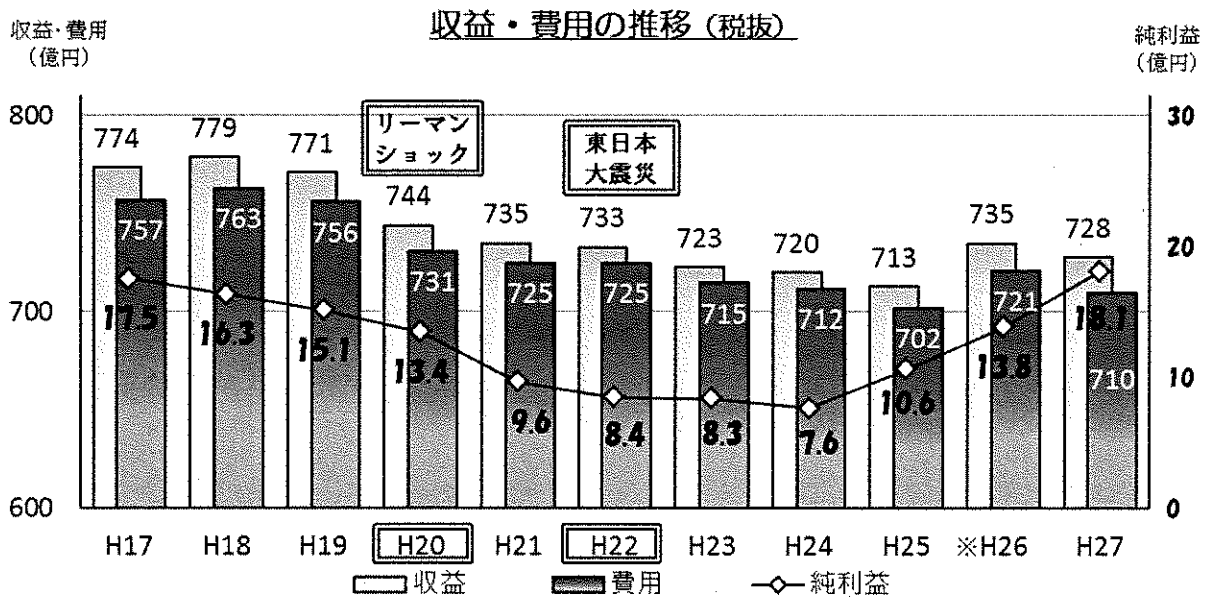
純利益とその使途

区 分		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
純利益(億円)		0.3	0.4	0.5	0.1	0.6	0.8	0.7	0.5	0.7	0.4	1.2
使 途	建設投資財源	0	0	0	0	0	0	0.4	0.5	0.7	0.4	0.2
	水源施設等償還財源	0.3	0.4	0.5	0.1	0.6	0.8	0.3	0	0	0	—

(3) 下水道事業

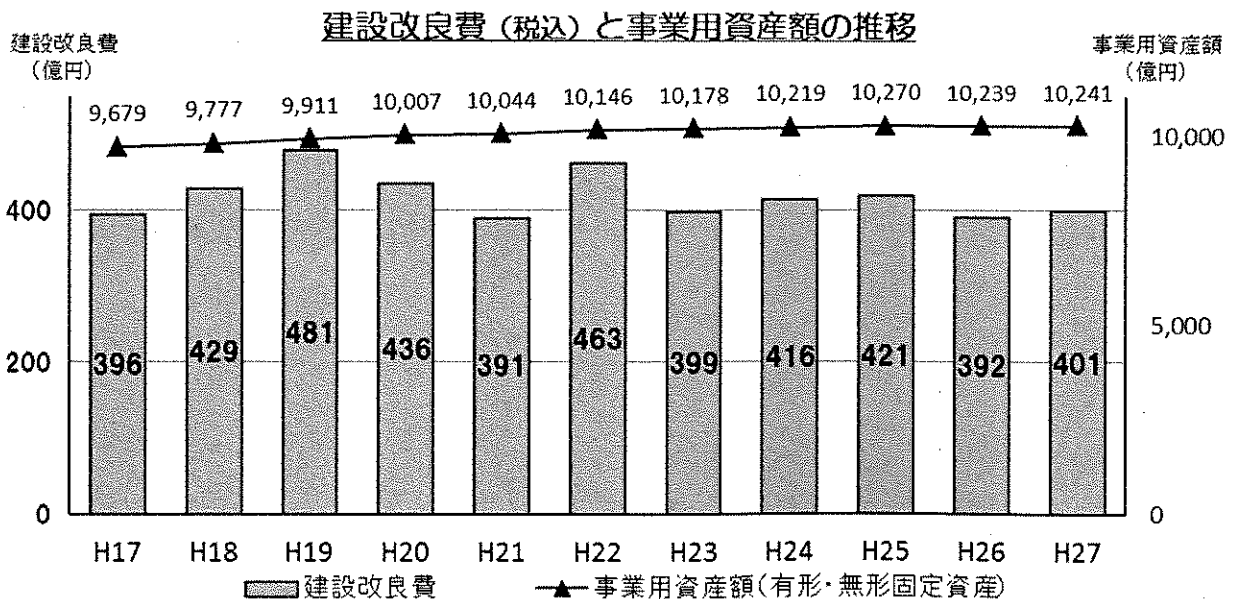
(イ) 近年の経営状況

水道使用量の減少が続いており、それに伴って下水道使用料の減少傾向も継続しています。この収益減に対し、人件費や企業債利息等の費用を抑制することで純利益を確保しています。



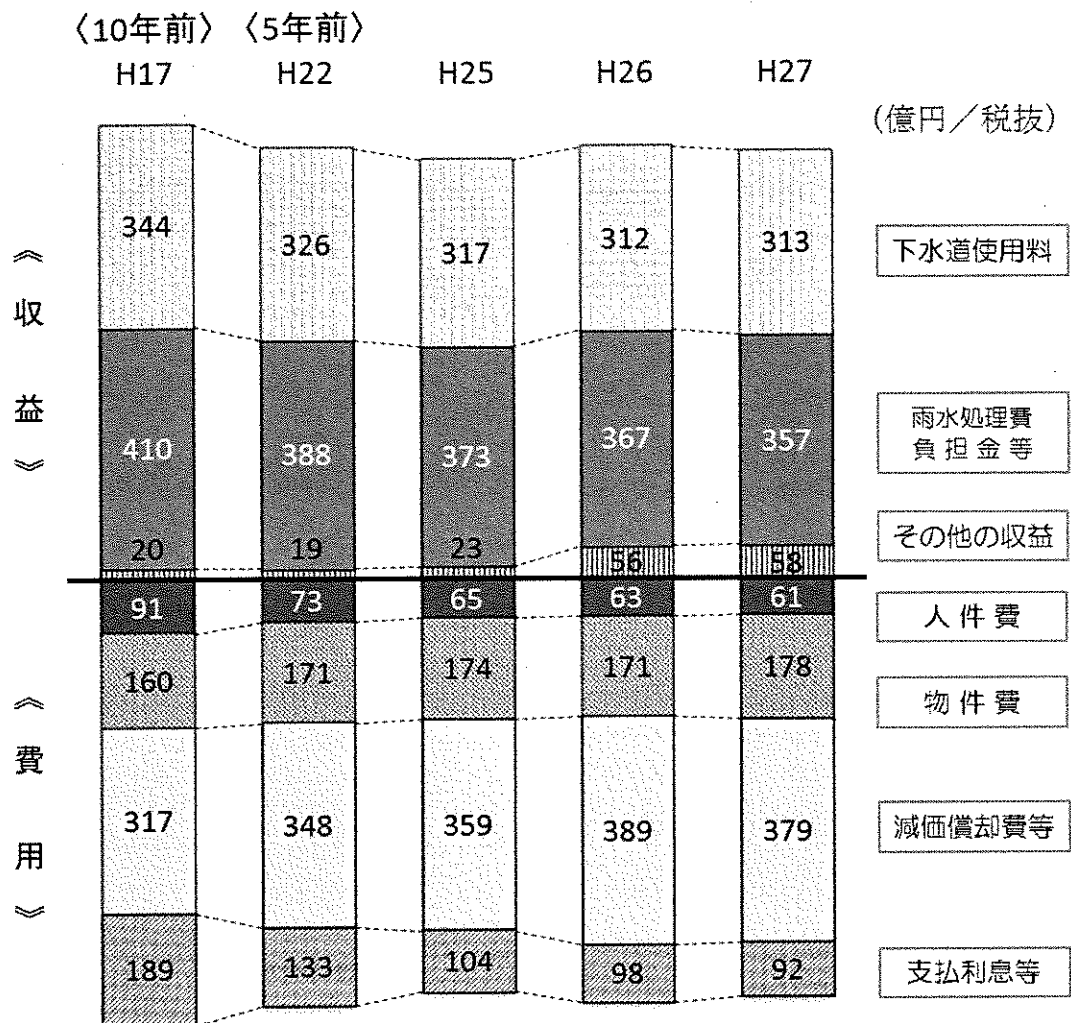
※会計制度の見直しに伴い、長期前受金戻入による収益や減価償却費等による費用が大きく増加しました。

建設改良事業では、老朽化した施設や下水管の改築及び耐震化、雨水貯留施設の建設や未整備地域への下水道整備を継続して実施しています。また、環境保全への対応として、高度処理の導入や合流式下水道の改善もすすめています。



（ロ）主な収益・費用の推移

収益・費用の推移の内訳を表すと、下図のようになります。



収益は、下水道使用料と雨水処理費負担金等、その他の収益に、費用は、人件費と物件費、減価償却費等、支払利息等に区分しました。

なお、物件費は主に人件費以外の運営経費、減価償却費等は施設の使用等による資産価値の減少額、支払利息等は建設投資の財源となった企業債から発生した利息等の額を表しています。

このうち、増減のあった主な収益・費用は以下のとおりです。

① 下水道使用料について

近年では、水道使用量の落ち込みなどの影響により、直近10年間の平均で約3億1千万円の減少傾向が継続しています。

下水道使用料と有収水量、処理区域内人口の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
下水道使用料 (億円)	344	326	317	312	313
水道汚水	311	294	283	277	277
その他汚水	33	32	34	35	36
有収水量 (百万㎡)	271	264	260	257	259
水道汚水	255	249	244	241	243
その他汚水	16	15	16	16	16
処理区域内人口 (万人)	217.1	223.8	224.9	225.8	227.9

② 雨水処理費負担金等について

雨水の排除に要する経費は、雨水公費・汚水私費の原則に基づき、一般会計からその全額を雨水処理費負担金等として繰入れています。

近年、経費節減に努めていることから雨水処理費負担金は減少していますが、雨水貯留施設の建設等を行っている緊急雨水整備事業の進展に伴い、緊急雨水整備事業費負担金は増加しています。

雨水処理費負担金等の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
雨水処理費負担金等 (億円)	410	388	373	367	357
雨水処理費負担金	404	365	343	335	325
緊急雨水整備事業費負担金	6	23	30	32	32

③ 人件費について

業務の効率化等による職員数の削減をすすめています。近年では、汚泥処理場やポンプ所の運転管理の外部委託化や、管路センターの設立等の効率化を実施し、人件費の抑制に努めています。

人件費と職員数の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
年度末総職員数(人)	1,173	1,046	1,006	994	984
総人件費(億円)	110	91	82	81	79
うち、損益勘定人件費(億円)	91	73	65	63	61

④ 減価償却費等について

老朽化した施設や下水管の改築や耐震化、雨水貯留施設の建設、高度処理の導入や合流式下水道の改善など、下水道事業は多くの建設投資が必要となる分野であり、こうした建設改良事業がすすむことで固定資産が増加するため減価償却費も増加傾向となっています。

減価償却費等と償却資産の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
減価償却費等(億円)	317	348	359	389	379
減価償却費	304	334	342	356	357
資産減耗費	13	14	17	33	22
償却資産(億円)	8,503	9,220	9,415	9,260	9,251

(注) 償却資産は、減価償却しない土地と供用開始前の資産を除く
有形固定資産及び無形固定資産です。

⑤ 支払利息等について

支払利息等は、計画的な企業債残高の縮減に努めたことや、新規発行時や借換時の利率が低水準にあったこと等により、減少傾向となっています。

支払利息等と企業債残高、平均利率の推移

区 分	H17	H22	H25	H26	H27
支払利息等(億円)	189	133	104	98	92
企業債残高(億円)	5,584	5,125	4,895	4,816	4,717
平均利率(%)	3.22	2.29	2.05	1.95	1.80

(ハ) 純利益の使途

下水道事業では、全国的にみて低い料金水準を維持しつつ堅調に純利益を確保しています。この純利益は、議会の議決を経たのち、建設改良積立金や減債積立金として積み立ててきており、建設改良事業や企業債の償還の財源として使用することで、設備更新や将来負担の軽減に役立ててきました。

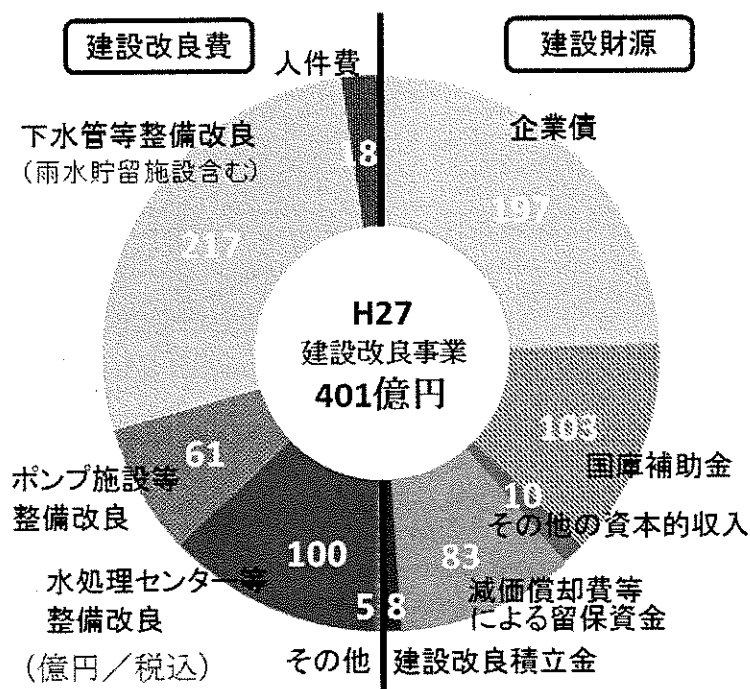
純利益とその使途

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
純利益(億円)	17.5	16.3	15.1	13.4	9.6	8.4	8.3	7.6	10.6	13.8	18.1	
使 途	建設投資財源	0	0	0	6.0	5.0	5.0	8.3	7.6	10.6	13.8	18.1
	企業債償還財源	11.6	16.3	15.1	7.4	4.6	3.4	0	0	0	0	
	欠損金の補填	5.9										

（二）建設改良事業と建設財源

建設改良事業は、資本的支出の建設改良費で行う工事等で、設備等の新規・更新取得、機能向上や耐用年数の延伸を伴う改良などを実施しています。

下図は、平成 27 年度における建設改良費とその建設財源を表しています。図の左側は建設改良費の内訳、右側はその財源構成を示しています。



水処理センターやポンプ所などの下水道基幹施設については、適切な施設規模や耐震化などの機能の向上を考慮して計画的に改築をすすめました。

下水管については、下水管の調査と改築および重要な幹線等の耐震化をすすめました。

こうした改築、各施設の耐震化や高度処理の導入をすすめる一方で、緊急雨水整備事業等による雨水貯留

施設の建設、未整備地域への下水道整備、汚濁負荷の高い初期雨水対策である合流式下水道の改善もすすめています。

建設財源については、企業債による長期借入金で 197 億円、補助事業に対する国庫補助金で 103 億円、残額を減価償却費等により留保される資金等で賄っています。なお、企業債による長期借入金は、借入金残高を増加させない金額に抑えています。

5 主な施策

(1) 老朽施設への対応・災害への備え

水道基幹施設の更新および耐震化

27年度事業費 59億6,563万円
(うち耐震化分 34億9,106万円)

本市の水道事業は、大正3年(1914年)に給水を開始し、創設期から運用している施設や、高度経済成長期に建設した施設の多くが更新対象となる大量更新の時代を迎えており、老朽化した施設の計画的な整備が必要となっています。

取水場から導水管を經由して浄水場へ、また浄水場から送水管を經由して配水場に至る、水道施設の上流部分である水道基幹施設については、「第3次水道基幹施設整備事業」(平成23～27年度)に基づいて更新及び耐震化を実施しました。

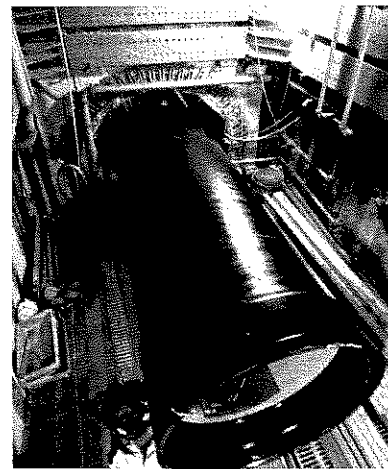
第3次水道基幹施設整備事業は、浄水施設をはじめとする水道基幹施設を整備し、安全・安心な水の安定供給、地震等の災害に対する安全性の向上、環境負荷の低減化を図るため、平成23年度から平成27年度までの5か年で実施するものです。

平成27年度は、布設後80年以上経過した犬山系導水路A管をはじめとする老朽化した各施設について、引き続き更新及び耐震化を実施しました。

主な整備施設

【犬山系導水路A管】

犬山系導水路A管(昭和7年完成)は、犬山取水場から春日井浄水場までの導水路3条のうち1条です。布設後80年以上経過し老朽化しており、耐震性を高めるため、更新を行っています。



写真：犬山系導水路A管の更新

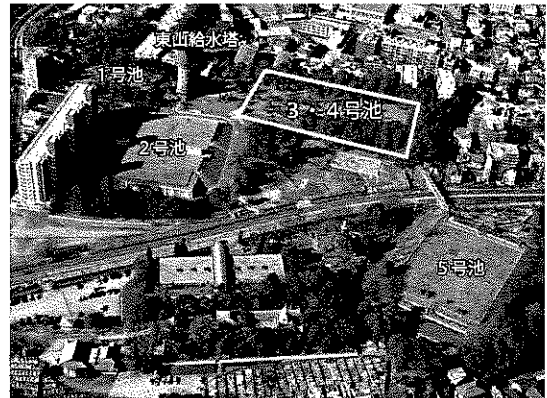
【大治浄水場非常用発電設備】

大規模災害等による停電時においても必要な水量を配水できるよう、非常用発電設備の能力増強を行っています。

区分	整備前	整備後
総発電量(kVA)	3,000	7,000
運転可能時間(時間)	19	72

【東山配水場3・4号配水池】

東山配水場3・4号配水池（昭和3年完成）は、完成後87年が経過した施設で、耐震化と容量の増強を図るため更新を行っています。



写真：東山配水場3・4号配水池の更新工事箇所

区分	有効容量(m ³)	
	更新前	更新後
3号池	9,370	23,500
4号池	9,370	

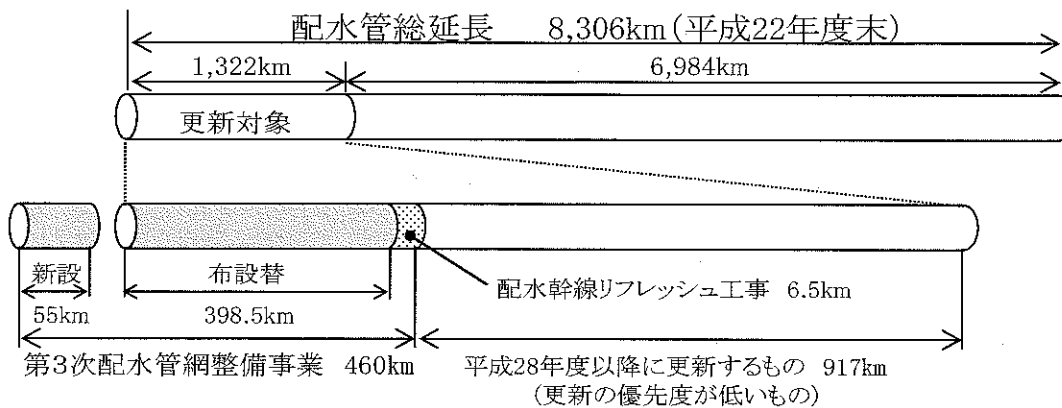
配水管の更新及び耐震化

27年度事業費 130億9,421万円
 (うち耐震化分 129億9,032万円)

配水管については、破裂等による被害の影響が大きい配水幹線等の耐震化を図ることとした「第3次配水管網整備事業」（平成23～27年度）により更新をすすめました。

計画では、平成22年度末時点の配水管総延長8,306kmについて、老朽化した管路や耐震性の低い管路など更新が必要な管路1,322kmを対象とし、平成23～27年度の5年間で、更新の優先度が高い配水管の整備を新設と合わせて460km実施する予定としました。

第3次配水管網整備事業（H23～27）について



平成27年度には100.0kmの配水管整備を実施し、470.6kmの整備を行いました。

第3次配水管網整備事業の実施状況

区分	全体計画 (H23～27)	実施状況					計
		H23	H24	H25	H26	H27	
整備延長	460.0	95.0	95.0	95.7	84.9	100.0	470.6

※ 市立中学校へ至る配水管の耐震化について

災害医療活動拠点病院、救急病院、透析医療病院など病院施設や、入所型社会福祉施設などの災害時要援護者が利用する施設に至る管路の耐震化が25年度に完了したことから、26年度から新たに災害時に救護所となる市立中学校へ至る配水管の耐震化を優先してすすめました。

市立中学校へ至る配水管の耐震化実施状況

区分	計画 (H26-27) km	実施状況		計 km
		H26 km	H27 km	
整備延長	11.0	6.8	3.8	10.6

(注) 市立中学校へ至る配水管の総延長34.7kmのうち23.7kmは、平成25年度末までに耐震化済み

下水道基幹施設の改築および耐震化

27年度事業費 103億9,900万円
(うち耐震化分 18億8,794万円)

本市の下水道事業は、大正元年(1912年)に供用を開始し、現在運用している水処理センター、ポンプ所、汚泥処理場の多くは、高度経済成長期に集中して整備されたものとなっています。これらの施設が今後改築需要のピークを迎えるため、事業費の平準化に配慮しながら計画的に改築をすすめる必要があります。

また、巨大地震や集中豪雨などの災害への対応や下水道の放流先である伊勢湾や河川等の水環境の向上を目的とした高度処理の導入、合流式下水道の改善など、施設の機能向上を改築に合わせて行っていく必要があります。

現在は、「下水道基幹施設整備計画」(平成26～32年度)に基づき、耐震化などの機能の向上を図りながら計画的に改築をすすめています。

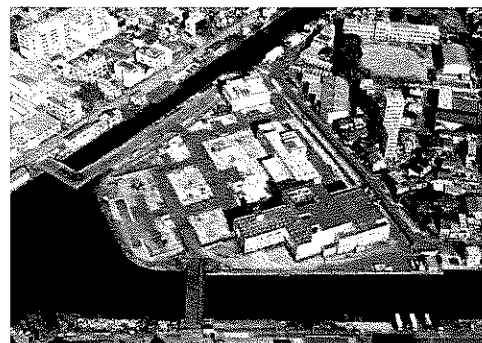
平成27年度は、露橋水処理センター等の整備をすすめました。

主な整備施設

【露橋水処理センター】

露橋水処理センターは昭和8年(1933年)から稼働していた施設であり、老朽化に伴い、平成15年度から改築を実施しています。

また、施設の耐震化を図るとともに、高度処理の導入や合流式下水道の改善策として簡易処理高度化施設の設置も行っています。



写真：露橋水処理センターの改築工事

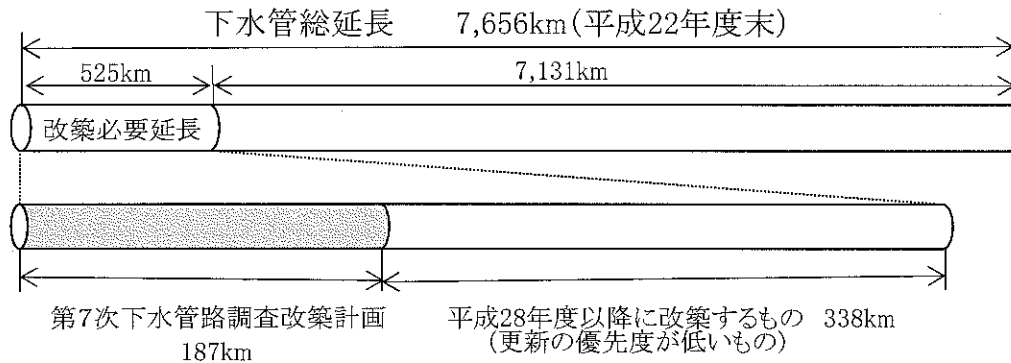
下水管の改築および耐震化

27年度事業費 112億135万円
(うち耐震化分 85億3,611万円)

下水管については、「第7次下水管路調査改築計画」(平成23～27年度)に基づき、下水管の調査と改築および重要な幹線等の耐震化をすすめました。

計画では、平成22年度末時点の下水管総延長7,656kmについて、平成23～27年度の5年間で2,070kmを調査する予定としました。また、古いコンクリート管や調査の結果不良と判定された下水管などの改築が必要な管路525kmのうち、優先度の高い187kmを改築する予定としました。

第7次下水管路調査改築計画 (H23～27) について



平成23～27年度で2,133.1kmの調査を完了し、164.6kmの改築を実施しました。特に、重要な幹線等(軌道下・河川下・緊急輸送道路下に埋設された下水管および避難所等と水処理センターを結ぶ下水管)については優先的に改築を行い、52.6kmの耐震化を実施しました。

第7次下水管路調査改築計画の実施状況

区 分	全体計画 (H23～27) km	実施状況					計 km
		H23 km	H24 km	H25 km	H26 km	H27 km	
調査延長 (うち重要な幹線等)	2,070 (350)	439.2 (36)	596.3 (105)	461.8 (130)	419.1 (103)	216.7 (42)	2,133.1 (416)
改築延長 (うち重要な幹線等)	187 (47.0)	23.6 (7.0)	29 (12.5)	33.3 (13.0)	38.4 (11.4)	40.3 (8.7)	164.6 (52.6)

※ マンホールの浮上防止対策について

地震発生時に多くの方が避難されると想定される市立小学校や、医療活動の中心となる災害医療活動拠点から水処理センターを結ぶ下水管に接続するマンホールについて、浮上判定および浮上防止対策を実施しています。

マンホールの浮上判定および浮上防止対策の実施状況

区 分	実施状況				計
	H24	H25	H26	H27	
マンホール (箇所)	82	68	204	450	804

※ 陥没対策について

道路陥没を未然に防ぐため、道路下の空洞をレーダーで調査（「空洞調査」）するとともに、下水管に起因する陥没原因の多くを占める取付管（宅地内と下水本管をつなぐ管）をテレビカメラで調査（「取付管調査」）しました。

空洞調査及び取付管調査の実施状況

区 分	全体計画 (H23~27)	実施状況					
		H23	H24	H25	H26	H27	計
空洞調査 (km)	715	106.2	142.4	181.0	210.7	185.6	825.9
取付管調査 (箇所)	135,000	31,379	32,199	29,174	24,495	36,994	154,241

空洞調査の実施状況には、計画外の緊急対応等による調査延長を含みます。

その他の地震対策

- ・浄水場や配水場などの耐震診断に関する調査等を実施しました。
27年度事業費 1億674万円
- ・災害時に活動拠点となる営業所に、非常用電源設備を整備しました。
27年度事業費 1,642万円
- ・災害時における円滑な通信の確保を図るため、無線設備を強化しました。
27年度事業費 427万円

浸水対策

27年度事業費 108億3,300万円

平成12年の東海豪雨、平成20年8月末豪雨などにおいて、市内各所で広範囲にわたって浸水被害が発生したことを受けて、著しい浸水被害が集中した地域や都市機能の集積する地域を対象として緊急雨水整備事業を着実に実施するとともに、その他の地域についても浸水対策をすすめています。

緊急雨水整備事業では、原則1時間60ミリの降雨に対応する雨水調整池の建設や雨水ポンプの増強などを行っています。

平成27年度においては、露橋雨水調整池など4箇所です工事が完了し、中村中部雨水調整池はじめ5箇所です工事を引き続き行うとともに、新たに、ほのか雨水調整池の工事に着手しました。ポンプ所については、広川ポンプ所の工事を引き続き行っていきます。また、管きよの増強については、4地域で完了し、9地域で引き続き整備をすすめています。



写真：雨水調整池の建設現場
／中村中部雨水調整池（工事中）

緊急雨水整備事業の実施状況

区 分	全体計画 (H13~33)	H27までの実施状況			
		完 了			工事中
		~H26	H27	計	
雨水調整池の建設 (箇所)	49	38	4	42	6
雨水ポンプ増強等 (箇所)	16	15	0	15	1
管きよの増強 (地域数)	40	26	4	30	9

(2) 環境保全への対応

水環境の向上

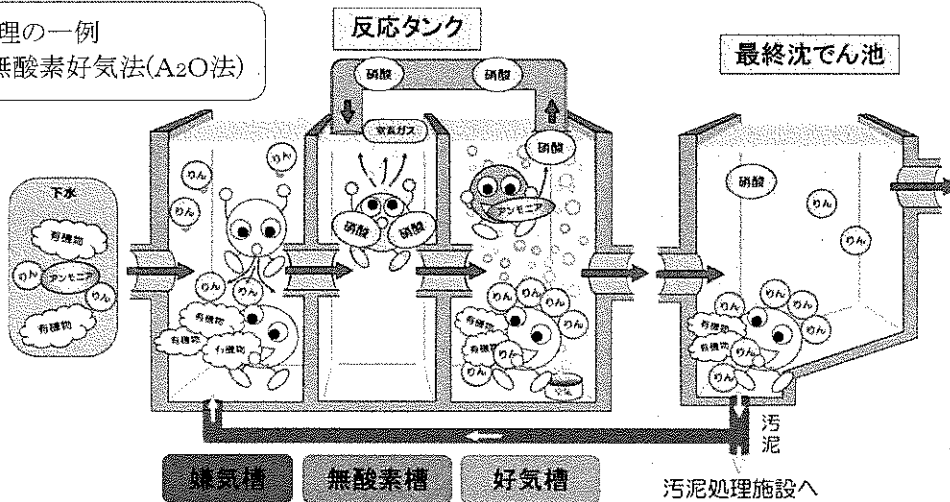
27年度事業費 38億2,600万円
(うち耐震化分 14億600万円)

伊勢湾や市内河川等の水環境向上のため、高度処理の導入や合流式下水道の改善をすすめるとともに、下水道の未整備地域の解消に努めています。

・《高度処理施設の整備》

平成27年度は、改築に合わせて高度処理を導入する露橋水処理センターの建設を引き続きすすめました。また、平成27年度から植田水処理センターの高度処理施設の整備に着手しました。

高度処理の一例
嫌気無酸素好気法(A₂O法)

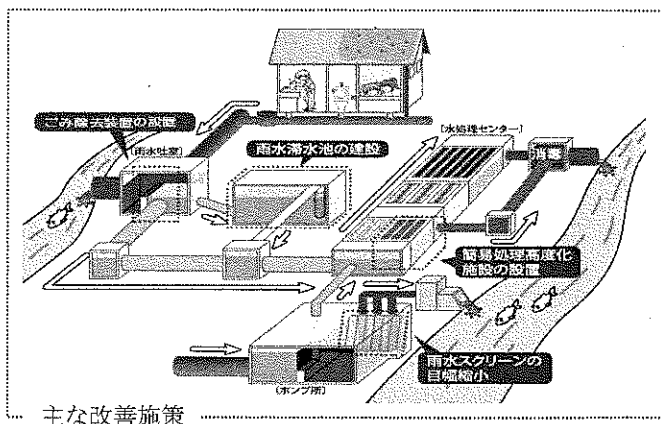


りん除去：微生物が嫌気槽でりんを吐き出し、好気槽で吐き出した以上のりんを取り込むことで水中からりんを除去します。

窒素除去：微生物が好気槽でアンモニアを硝酸に変化させ、この硝酸を含んだ水を無酸素槽に送ることで、無酸素槽の微生物が硝酸から窒素ガスを生成します。生成された窒素ガスは大気中に放出され水中から窒素が除去されます。

・《合流式下水道の改善》

平成27年度は、堀川左岸雨水滞水池はじめ3箇所で雨水滞水池の建設を、露橋水処理センターはじめ3箇所で簡易処理高度化施設の建設を引き続きすすめました。



・《下水道の整備》

平成27年度は、中川区および港区の庄内川西部地区、守山区の志段味地区並びに緑区の一部地区における下水道整備をすすめました。この結果、処理面積は49ha増加し、人口普及率は99.3%となっています。

環境にやさしい上下水道

・《導水管の整備》

自然流下による導水量を増やし、エネルギーを低減するため、犬山取水場から春日井浄水場までの導水管(犬山系導水路A管)の整備をすすめました。

27年度事業費 14億4,633万円(再掲)

・《瑞穂配水場の整備》

春日井浄水場から瑞穂配水場への送水をポンプ圧送から自然流下に切り替え、環境負荷の少ない水運用の配水区域を拡大するため、瑞穂配水場のポンプ設備等の整備をすすめました。

27年度事業費 1億9,400万円(再掲)

・《浄水発生土や汚泥焼却灰の有効利用》

浄水処理の過程で発生する浄水発生土を園芸用培養土やグラウンド造成材の原料にしたり、下水処理の過程で発生する汚泥焼却灰をセメント原料にするなど、資源を有効に利用しました。

区分	発生量	有効利用量	有効利用率	利用内容
浄水発生土 (脱水ケーキ)	8,679t	8,679t	100%	園芸用、セメント等
汚泥焼却灰	10,447t	10,138t	97.0%	改良土、セメント等

・《一酸化二窒素の発生抑制(高温焼却)》

下水汚泥の焼却にあたり、温室効果ガスである一酸化二窒素(N₂O)の発生を抑制するため、汚泥処理場の焼却炉において、高温焼却に取り組みました。

・《太陽光発電設備の設置》

局の施設の上部を民間事業者に貸し出し、太陽光発電設備の設置をすすめました。

【屋根貸しを行っている施設】

- ・落合ポンプ所
- ・喜惣治ポンプ所

・《エコパイプロール工法の実用化等》

環境への配慮とコスト縮減を図るため、上下水道工事において浅層埋設や改良土の使用を推進しました。また、名古屋上下水道総合サービス株式会社と共同開発した水道の道路取付管を非開削で取替する「エコパイプロール工法」については、技術面で効果が確認できたため本格実施に向けた検討を行いました。

(3) 安全でおいしい水の安定供給

おいしさの探求

・《流域自治体との連携》

木曾三川流域の水環境の保全を目的に流域自治体間で意見交換を行う「第6回木曾三川流域自治体シンポジウム」や、上中流域の経済振興に向けた支援策として「木曾三川流域“地方創生”商談会」等を実施しました。

また、「木曾川さんありがとう」や「エコ市」などの流域連携事業も実施しました。



27年度事業費 513万円 写真：鍋屋上野浄水場での「エコ市」

・《塩素注入量の適正化》

おいしい水供給のため、浄水場からお客さまのもとへ届くまでの時間の短縮を目指した取り組みなど、残留塩素濃度の適正化・均一化に努めました。

・《配水管内クリーニング工事等》

配水管内面を計画的に調査し、きょう雑物が発生している配水管内について、クリーニング工事を実施しました。また、送・配水幹線などの内面清掃を実施しました。

【クリーニング工事】

H23～27年度の目標：150km

H23～27年度の実績：146km

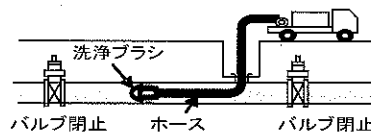
【内面清掃】

H23～27年度の目標：26km

H23～27年度の実績：31km

27年度事業費 2億6,066万円

配水管内クリーニング工事



安心・安全の向上

・《浄水技術の向上》

原水の良さを活かした浄水処理方法を継続していくとともに、ろ過池の適正な運転管理による濁度管理の徹底、新緩速ろ過池の評価、浄水処理技術等の調査研究などにより、浄水技術の向上に取り組みました。

27年度事業費 3,151万円

・《直結給水の普及促進》

窓口での設計相談時や貯水槽水道の点検時など、お客さまと接する機会を利用して、直結給水のメリットをPRしました。また、受水槽方式から直結給水方式へ切替えた集合住宅にお住まいのお客さまを対象に、切替えのご案内を配布しました。

【直結給水を採用した中高層建物物件】

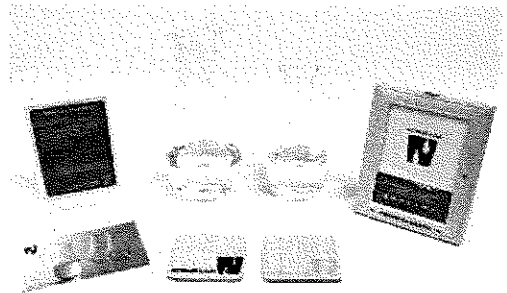
H27年度中に施工した建物で、直結給水が可能な新築の建物のうち、直結給水を採用した建物の割合：97.7% (976件中954件)

ブランド力の向上

・《名水フレンドシップ事業》

なごやの水道水のPRにご協力いただけるお店や企業等を「名水パートナー」として登録し、局オリジナルカラフェやおいしい水のキャンペーンマークを用いたPRグッズの活用、スタンプラリーの開催、イベントでの連携などを通して、なごやのおいしい水をPRしました。

27年度事業費 210万円

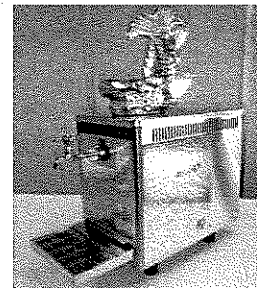


写真：オリジナルカラフェとPRグッズ

・《冷水機（金鯪水）を活用した水道水のPR》

なごやの水道水を気軽に飲んでいただくために、局内外のイベントなど（なごや水フェスタ、名古屋城宵まつり、にっぽんど真ん中まつり等）で冷水機（金鯪水）を設置し、お客さまに水道水の安全性とおいしさを実感していただきました。

27年度事業費 48万円



きんこすい

写真：金鯪水

(4) お客さまニーズへの対応

貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導

27年度事業費 7,226万円

給水区域内の全小規模貯水槽水道を対象に、点検・指導を実施しました。

また、平成26年度の点検・指導において改善を働きかけた施設に対し、改善状況について確認しました。

【実施内容】

H27年度当初の未実施件数：2,685件
 H27年度の実施件数：(1巡目) 2,685 件
 : (2巡目) 1,986 件
 H27年度の改善状況の確認：840件

地下排水槽（ビルピット）の悪臭発生防止の啓発及び臭気調査

27年度事業費 908万円

市内全域の地階を有する建物を対象に、実態調査・臭気測定を実施しました。

また、平成26年度及び平成27年度の調査結果を受けて改善を働きかけた施設に対し、改善状況について確認しました。

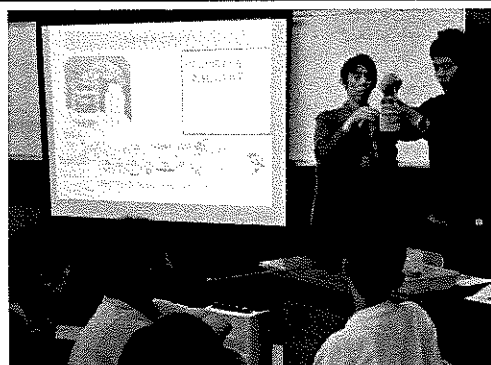
【実施内容】

H27年度当初の未実施件数：176件
 H27年度の実施件数：176件
 H27年度の改善状況の確認：68件

上下水道訪問授業の実施

27年度事業費 515万円

市内小学校134校、4年生児童9,407人を対象に、水道・下水道のしくみや水循環、水道水の安全性などについて総合的に学習してもらうため、実験を取り入れながら職員が講師となり授業を行いました。



写真：小学校への訪問授業

(5) 新しい経営環境への対応

広域化

清須市、北名古屋市、あま市及び大治町の本市給水区域における下水道使用料の徴収事務を受託するとともに、名古屋上下水道総合サービス株式会社(NAWS)による個別業務の受託など、周辺市町からのニーズに応じて、局とNAWSが連携して広域的に事業を展開しました。

国際貢献

- ・《JICAを通じた職員の派遣・研修生の受入》
開発途上国が抱える上下水道の問題解決に寄与するため、独立行政法人国際協力機構(JICA)を通じた職員の派遣・研修生の受入を積極的に行いました。
具体的には、JICA草の根技術協力事業を実施し、スリランカ上下水道公社の技術者の配水管工事の施工管理に関する技術力強化に向けた指導や、メキシコ市の下水処理改善に向けた技術支援などに取り組みました。
- ・《国際的な水ビジネスの支援》
中部地方の国、地方自治体、学識経験者、民間企業等で構成される「水のいのちとものづくり中部フォーラム」に参加し、中部フォーラムの活動に協力することで、開発途上国などへの国際貢献や名古屋市始め中部地方の産業界の経済活動への支援を行いました。

(6) 経営基盤の強化

事業の効率的な執行

- ・ 《管路センターの集約化》
配水管と下水管の効率的な管理に向けて、引き続き管路センターの業務及び事務所の集約化をすすめました。
- ・ 《ポンプ所の運転管理業務委託》
ポンプ所の運転監視拠点の集約を行いつつ、運転管理業務を委託しました。
- ・ 《営業事務オンラインシステムの再構築》
平成3年1月より稼働し、システム全体が老朽化している「営業事務オンラインシステム」の再構築に着手しました。

資産の有効活用

事業用定期借地権設定契約による土地貸付や有料駐車場としての活用など、現有資産を利用した収益の確保に努めました。

【主な資産の有効活用】

事業用定期借地権による貸付	: 当知資材置場跡地始め2件
有料駐車場	: 稲葉地公舎跡地始め26箇所 収容台数693台
自動販売機の設置	: 一社南駐車場始め57台

この冊子は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。